

令和7年 火災・救急・救助概要（上半期）

1 火災の発生状況

(1) 火災発生件数と火災による死者、負傷者の数

令和7年（上半期）の火災発生件数は62件で、火災による死者は2人、負傷者は8人でした。

	令和7年	令和6年	前年比較
火災の発生件数	62件	56件	6件増加
火災による死者の数	2人	2人	—
火災による負傷者の数	8人	9人	1人減少

(2) 火災の種別

火災種別で見ると、建物火災が最も多く、全体の65.0%を占めています。

また、建物火災の中でも、住宅で発生した火災は23件で、前年の21件よりも2件増加しています。

火災種別	令和7年	令和6年	前年比較
建物火災	40件	38件	2件増加
車両火災	3件	3件	—
船舶火災	0件	0件	—
航空機火災	0件	0件	—
その他火災	19件	15件	4件増加

(3) 出火原因

出火原因で見ると、たばこが1位、次いで、電気機器・装置が2位、配線器具が3位となりました。

順位	令和7年	令和6年
1位	たばこ 10件	たばこ 10件
2位	電気機器・装置 7件	放火・放火の疑い 9件
3位	配線器具 6件	配線器具 8件

2 救急の出動状況

(1) 救急出動件数と搬送人員

令和7年(上半期)の救急出動件数は17,045件で、医療機関に搬送された人の数(搬送人員)は14,510人でした。

出動件数、搬送人員ともに過去最多となりました。

	令和7年	令和6年	前年比較
救急の出動件数	17,045件	16,708件	337件増加
搬送人員	14,510人	14,101人	409人増加

(2) 搬送人員の程度別

搬送人員を程度別で見ると、軽症が最も多く、全体の50.8%を占めています。

程度別	搬送人員	全体に占める割合*
軽症(入院を必要としない程度)	7,368人	50.8%
中等症(20日以内の入院が必要な程度)	6,217人	42.8%
重症(21日以上入院が必要な程度)	781人	5.4%
死亡	144人	1.0%

(3) 搬送人員の年齢別

搬送人員を年齢別で見ると、高齢者が最も多く、全体の64.2%を占めています。

年齢別	搬送人員	全体に占める割合*
新生児(生後28日未満)	23人	0.2%
乳幼児(生後28日以上、7歳未満)	662人	4.6%
少年(7歳以上、18歳未満)	400人	2.8%
成人(18歳以上、65歳未満)	4,113人	28.3%
高齢者(65歳以上)	9,312人	64.2%

※全体に占める割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%となりません。

3 救助の出動状況

(1) 救助出動件数と救助人員

令和7年中の救助出動件数は398件で、救助された人の数（救助人員）は189人でした。

出動件数、救助人員ともに過去最多となりました。

	令和7年	令和6年	前年比較
救助の出動件数	398件	371件	27件増加
救助人員	189人	162人	27人増加

(2) 事故種別

事故種別でみると、建物等による事故が最も多く、全体の48.7%を占めています。

事故種別	令和7年	令和6年	前年比較
火災	11件	16件	5件減少
交通事故	17件	19件	2件減少
水難事故	9件	2件	7件増加
自然災害事故	0件	0件	—
機械による事故	2件	0件	2件増加
建物等による事故	196件	176件	20件増加
ガス・酸欠事故	2件	1件	1件増加
破裂事故	0件	0件	—
その他の事故	161件	157件	4件増加

(3) 室内閉じ込め救助の状況

近年は、ひとり暮らしの高齢者が施錠された自宅の中で倒れて動けなくなり、家族やヘルパー等の支援関係者が室内に入れないといった事案（室内閉じ込め救助）が増加しています。

また、室内閉じ込め救助には、家人が外出していたものや、室内で寝ていたものなど、結果的に、緊急性のなかった事案も少なくありません。

	令和7年	令和6年	前年比較
室内閉じ込め救助の発生件数	288件	268件	20件増加
救助出動全体に占める割合	72.4%	72.2%	0.2%増加
緊急性のなかった事案	135件	124件	11件増加